

Information

日本看護協会 看多機運営セミナー

テーマ▶地域に根付き、地域を支える看多機を作るには

日時▶10月10日(水)9:30~15:10

会場▶日本看護協会 JNA ホール (東京都渋谷区)

プログラム▶講演①「看多機創設期からの動向と今後の展望 (仮)」荒木暁子 (日本看護協会) / ②「看護職・介護職の協働のポイント (仮)」橋本美香 (東北文教大学短期大学部) / ③「横浜市における看多機の推進 (仮)」秋山直之 (横浜市健康福祉局) / 事例紹介①「看護職・介護職の協働と人材育成 (仮)」福田裕子 (まちのナースステーション八千代) / ②「重症者への対応と看取り (仮)」山根優子 (複合型小規模多機能ほっとの家) / ③「共生型サービスへの取り組み (仮)」林田奈緒美 (ナースিংホーム岡上) / ④「地域とのコミュニケーションのとり方 (仮)」上野幸子 (佐賀市在宅医療・介護連携センター) / 事例紹介・質疑／全体討議

対象▶看多機事業者 (管理者など)、看多機開設を予定または検討している事業者など、市町村・都道府県介護保険担当

定員▶210名 (応募多数の場合は1事業所あたり1名までの場合あり)

参加費▶会員5000円、非会員7000円 (税込)

申込締切▶9月28日(金)

申込方法▶下記日本看護協会ホームページの申込フォームより

問い合わせ先▶日本看護協会医療政策部在宅看護課

☎ 03-5778-8804 (9:00~17:00)

✉ zaitaku@nurse.or.jp

<http://www.nurse.or.jp/nursing/zaitaku/shokibo/index.html>

第13回呼吸リハビリテーション サイエンスフォーラム

日時▶10月20日(土)14:20~18:15

会場▶浜離宮朝日小ホール (東京都中央

区)

プログラム▶講演I「呼吸筋のDeoxygenationからみる理学療法アプローチの検証」田中貴子 (長崎大学) / II「呼吸筋ストレッチ体操の理論と実践」本間生夫 (東京有明医療大学)、実技指導: 高橋康輝 (東京有明医療大学) / III「画像・病理・呼吸生理学・臨床所見からみた膠原病関連間質性肺疾患とそのマネジメント」早稲田優子 (福井大学) / IV「身体活動性向上の意義—マイオカインの可能性」浅井一久 (大阪市立大学)

対象▶医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、その他医療関係者

定員▶280名

参加費▶3000円

申込方法▶①氏名 (ふりがな)、②勤務先名、③勤務先都道府県名、④職種、⑤連絡先メールアドレスを明記し、下記メールアドレスにE-mailで送信

問い合わせ先▶呼吸リハビリテーションサイエンスフォーラム事務局 (担当: 桑山由紀)

☎/✉ 03-3724-8090

✉ FSRR@iki-iku.com

<http://www.iki-iku.com/fsrr/>

栃木県小児在宅医療体制構築事業 第3回小児在宅医療に関わる 多職種研修会

テーマ▶医療的ケア児の育ち・学び・暮らしを支える

日時▶10月28日(日)10:00~16:00

会場▶那須赤十字病院マイタウンホール (栃木県大田原市)

内容▶講話1「小児在宅医療と多職種連携—子どもと家族のくらしをみつめて」高橋昭彦 (ひばりクリニック院長, 認定特定非常営利活動法人うりずん) / 講話2「医療的ケア児を育てる家族の立場から—きょうだい二人一緒に同じ保育園に通いたい」岡田絵莉香 / シンポジウム「県北地域の子どもの現況報告」齋藤雅美 (栃木県県北健康福祉センター)、三浦知津子 (訪問看護ステーションゆりの木)、後藤尚美 (あいのか福祉会) / 質疑応答 / 演習: 各園域に分かれてグループワーク (事例検討)

対象者▶医療職・福祉職・教育関係者・栄養士など

参加費▶無料

定員▶80名

申込方法▶ウェブサイトの申込フォーム (<https://www.npourizn.org/20181028tashokushu/>) より。または申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入して下記FAX番号に送信

申込締切▶10月16日(火)

問い合わせ先▶事務局 うりずん (担当: 金澤)

〒321-2116 栃木県宇都宮市徳次郎町365-1

☎ 028-601-7733

✉ 028-665-7744

✉ syounizaitaku@hibari-clinic.com

<http://www.npourizn.org/>

マインドフル セルフ・コンパッション 5日間集中プログラム

マインドフルネスを土台に、セルフ・コンパッション (自分への思いやり・慈悲) のスキルを育むための段階的プログラム「マインドフル セルフ・コンパッション (Mindful Self-Compassion: MSC)」を共に学びませんか? MSCはマインドフルネスを土台にしたトレーニングで、グループで行う心理教育です。つらさや苦しみの感情を、それよりも大きなリソースで包容できるスキルを自分の中に高めていきます。セルフ・コンパッション (自分への思いやり) を与えながら自分の内面とじっくりと向き合うため、さまざまな心の動きや深まりが現れます。日本語通訳がつきます。

講師▶クリス・ガーマー (ハーバード大学精神科、臨床心理学者、MSC共同創始者)、岸本早苗 (前・ハーバード大学産婦人科、現・京都大学大学院、臨床心理士。MSC Trained Teacher)

日時▶11月9日(金) 夜~11月14日(水) 12:00

会場▶関西セミナーハウス (京都市左京区)

プログラム受講費▶正規料金: 12万9000円

円／岸本による過去の8週間または2日間
プログラム受講生：11万9000円

滞在費▶正規料金：7万9000円／岸本による過去の8週間または2日間プログラム受講生：6万9000円（いずれも関西セミナーハウス5泊食事付き）

プログラム詳細・お申し込み▶<http://mindfulcare.jp/events/5dayintensive/>

問い合わせ先▶MSC5日間集中プログラム実行委員会事務局

✉ 5daymsc@mindfulcare.jp

<http://www.kansai-seminarhouse.com/access/>

訪問看護サミット2018

テーマ▶ともに支えあう地域づくりへのチャレンジ

日時▶11月11日(日)10:00~16:00

会場▶ベルサール新宿グランドホール（東京都新宿区）

内容▶特別講演「日々の看護実践から、新たな絆づくりへ」秋山正子（ケアーズ、白十字訪問看護ステーション、マギーズ東京）／「世界のプライマリケアと日本の訪問看護」喜多悦子（笹川記念保健協力財団）／シンポジウム「ともに支えあう地域づくりへのチャレンジ」榊原千秋（いのちにやさしいまちづくりばばねっと、訪問看護ステーションややのいえ、ちひろ助産院）、西村幸（在宅ケアセンターひなたぼっこ松山相談支援センター）、藤野泰平（デザインケア、みんなのかかりつけ訪問看護ステーション名古屋）、平原優美（あすか山訪問看護ステーション）

参加費▶5000円

定員▶700名

問い合わせ先▶日本訪問看護財団

☎ 03-5778-7001

FAX 03-5778-7009

<http://www.jvnf.or.jp>

全国訪問看護事業協会

●小児訪問看護研修会

内容▶子どもを支える訪問看護の実際

日時▶12月15日(土)10:00~17:00

会場▶OMM ビル会議室（大阪市中央区）

プログラム▶「小児の疾患と病態生理の理解」竹本潔（大阪発達総合療育センター）／「小児看護の基本的理解」倉田慶子（東邦大学）

対象▶訪問看護に従事する看護師など

定員▶約100名

参加費▶会員7000円、非会員2万1000円

●訪問看護ターミナルケア集中講座

内容▶訪問看護が支える在宅ターミナルケア

日時▶2019年2月14日(木)~16日(土)

会場▶中央法規ビル会議室（東京都台東区）

プログラム▶

1日目（2月14日）：「在宅ターミナルケアの考え方と取り巻く法的知識」宮田乃有（なごみ訪問看護ステーション）／「在宅ターミナルのプロセスとケアのポイント」宮田乃有／「在宅ホスピス緩和ケアの実際・病院以外での相談支援の試み—『がんとともに生きる』を支える」秋山正子（マギーズ東京）

2日目（2月15日）：「ガン治療の現状と動向」和田忠志（いらはら診療所）／「ターミナル期における退院支援の進め方と実際」宇都宮宏子（在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス）／「事例検討—意思決定支援の実際」高砂裕子（南区医師会訪問看護ステーション）

3日目（2月16日）：「緩和ケアにおける薬物療法」池田里江子（埼玉県薬剤師会）／「訪問看護におけるターミナル期の疼痛コントロール・症状緩和の実際」中島朋子（東久留米白十字訪問看護ステーション）／「臨死期のケアと専門職が行うエンゼルケア」中島朋子

対象▶訪問看護に従事する看護師など

定員▶約40名

参加費▶会員4万円、非会員8万円

【以下共通】

申込方法▶協会ホームページの申込フォーム（<https://www.zenhokan.or.jp/mailform-training30/>）から。または参加申込書を印刷し、必要事項を記入して下記FAX番号に送信

問い合わせ先▶全国訪問看護事業協会事務局

☎ 03-3351-5898

FAX 03-3351-5938

<http://www.zenhokan.or.jp/>